



2015（平成27）年10月20日
日本女子大学

第11回「平塚らいてう賞」受賞者を決定

＜顕彰＞ 日本女子大学 平塚らいてう研究会

＜奨励＞ 小川 真理子 氏

日本女子大学は本日、研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第11回「平塚らいてう賞」の受賞者を決定いたしました。

本年は顕彰2件と奨励4件の応募がありました。厳正な審査の結果顕彰1件、奨励1件を決定しました。受賞された方を以下に紹介します。

* 「平塚らいてう賞」

女性解放や世界平和のための活動に人生を捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学校卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的として2005年に創設した賞。

■ 受賞者

顕彰（1件） 日本女子大学 平塚らいてう研究会

奨励（1件） 小川 真理子 氏
（お茶の水女子大学 基幹研究院）

■ 贈賞式

本年11月21日（土）14時から、日本女子大学目白キャンパス新泉山館にて行います。

＜選考委員＞

佐藤 和人 〔日本女子大学学長〕
出淵 敬子 〔WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部副会長、日本女子大学名誉教授〕
倉田 宏子 〔城西国際大学客員教授、日本女子大学名誉教授〕
羽田 澄子 〔記録映画作家〕
大沢 真知子 〔日本女子大学 現代女性キャリア研究所所長〕

—この件に関するお問い合わせ先—

日本女子大学 広報課内「平塚らいてう賞」事務局
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
Tel:03-5981-3163 Fax:03-5981-3164
E-mail:raiteu@atlas.jwu.ac.jp
URL:http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/

第11回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第11回受賞者の選考にあたり、私どもは候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して各々「顕彰」「奨励」に値するとの結論に達しました。
ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

<顕彰>

受賞者：日本女子大学 平塚らいてう研究会

研究テーマ：

「平塚らいてうの著作や行動を研究し、今後の女性のあり方を考える」

受賞理由：

日本女子大学平塚らいてう研究会は、結成以来24年の長きにわたり、掲げた研究テーマを弛まず真摯に追求し、らいてう研究を着実に進展させた。

『らいてうを学ぶなかで』1・2・3号の刊行を通して、らいてう及び『青鞥』に関わる新資料等を公開し、日本女子大学校の教育及び創立者成瀬仁蔵がらいてうに与えた影響なども浮き彫りにした。また『青鞥』の先駆けともいべき日本女子大学校・桜楓会機関紙『家庭週報』の年表刊行、さらに『家庭週報』の前身と位置づけられる『女子大學週報』の翻刻を上梓し、『青鞥』誕生の背景に大きく銚を入れた。

なお、らいてうの同窓会(桜楓会)への復帰実現にも多大な尽力をされた。

<奨励>

受賞者：小川 真理子 氏

研究テーマ：

「DV被害者支援と民間シェルターに関する国際比較研究」

受賞理由：

小川氏はすでに2007年提出の修士論文で「日本におけるドメスティック・バイオレンス被害者支援を行う民間シェルターの考察－女性たちの市民活動としての民間シェルター活動の可能性」について書いているように、以後一貫してフェミニズムの視点から、DVと草の根運動などによる被害者支援の問題を研究している。最初の民間シェルターができてから20年余、DV防止法や自治体等の関与も徐々に実現してきたが、シェルターの必要性は現在も続いている。それどころか、DVの被害者は増える傾向さえみられる。

このような現代日本の状況をアメリカ、カナダなどと比較し、被害者支援はどうあるべきかを模索した貴重な記録であり、今後DVと民間シェルターの問題にどのように対処すべきか真剣に考えさせられる。平塚らいてう賞にふさわしい業績である。

以上